

令和2年度 学校自己評価システムシート (県立川越南高等学校)

目指す学校像	文武両道を実現し、新しい時代に活躍する自立した社会人を育成する学校
--------	-----------------------------------

重点目標	1 質の高い授業実践と充実した進路指導で、確実な学力向上とワンランク上の進路希望の実現 2 知情意のバランスを保ち、困難な課題に果敢に挑戦する人間力の育成 3 開かれた学校づくりを推進し、学校内外からの高い支持と評価を獲得
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	9名
※令和2年度は書面審議で実施		

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価							
年度目標			年度評価(1月28日現在)				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	■現状 ・教員相互の授業観察やICT機器を活用した授業実践等「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進している。 ・現役進学率90%(大学・短大78%)で、入学当初の国公立大学進学希望者割合は約25%である。 ■課題 ・「授業で勝負」を合言葉に、授業の工夫・改善を組織的な取組として展開する必要がある。 ・「学びに向かう力」を更に強化するための働きかけを早期段階から充実させる必要がある。	ワンランク上の進路実現に繋がる組織的・継続的な授業改善と進路指導の実現	①教員相互の授業観察期間を年間2回設定するとともに、隣接する中学校との相互授業参観を実施 ②観点別学習状況評価の各観点を踏まえ、生徒に考えさせる発問やアウトプット(書く・話す・話し合う・発表する)する場面を授業内で積極的に創出 ③自学自習力を高めるために「何のために学ぶのか」という学習の意義を生徒間で共有させる指導を組織的・継続的に実施 ④ワンランク上へ引き上げる組織的な「進学補講」の計画・実施 ⑤保護者と連携した進路指導を推進するため、保護者参加型の進路行事や「高校生のための学びの基礎診断」及び模試結果データ等を活用した三者面談等の実施	①教員相互の授業観察の参観率100%を達成し、授業改善の機運が更に高まったか。 ①②③④「学校評価アンケート」の学習指導に関する調査項目の肯定回答割合が7割程度になったか。 ④平常時及び長期休業期間における「進学補講」が組織的に実施され、開設講座数及び参加者数が前年度を上回ったか。 ⑤「学校評価アンケート」の進路指導に関する調査項目の肯定回答割合が7割程度になったか。	■生徒の高い目標を実現できる組織的・継続的な学習指導と進路指導に向けて更なる工夫・改善が必要 ①新型コロナウイルス感染症の影響により教員相互の授業観察期間の設定や隣接する中学校との相互授業参観を実施することができなかった。 ①②③④「学校評価アンケート」の学習指導に関する調査項目の肯定回答割合は91%(昨年度66%)であった。 ④通年進学補講の開講講座数は20講座(昨年度22講座)で、3学年生徒の参加率は69%(昨年度77%)であった。 ⑤「学校評価アンケート」の進路指導に関する調査項目の肯定回答割合は生徒84%(昨年度63%)保護者80%(昨年度59%)であった。	B	■次年度への課題 ・生徒個々の学力を最大限に伸ばすため、教科指導力・授業力を更に向上させる必要がある。 ・全教職員の協力により学習する集団づくりを更に推進し、授業外の学習時間の確保と早期段階での自学自習の習慣の確立を図る必要がある。 ・チャレンジ精神や進路実現に必要な資質能力を更に高める必要がある。 ■改善策 ・新学習指導要領の理念を全教員で再確認し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業研究・授業分析・授業評価に取り組む。 ・BYOD環境下でのG suiteの活用も含めたより一層の授業改善を推進する。 ・予習と復習を習慣化させる方略を講じ、受動的な学習から能動的な学習への転換を図る。 ・段階的・系統的な進路指導を更に充実させる。
2	■現状 ・部活動や学校行事の取組が盛んで、「学校評価アンケート」の部活動や学校行事に関する調査項目の肯定回答割合が約9割にのぼる。 ・自立した生徒を育成するための生徒指導を計画的・継続的に実施するとともに、教育相談も充実させつつある。 ■課題 ・生徒が持っている潜在能力を最大限引き出し、充実した高校生活を送れるよう全教職員体制でサポートする必要がある。 ・「文武両道」を体現すべく部活動の合理的でかつ効率的・効果的な活動を推進する必要がある。	最後まで諦めない気力・体力・精神力の強化	①面談等でより高度な目標設定を促し、目標達成への努力を通じて探究心を涵養し、創造性を高め、自ら学び自ら考える力を育成 ②学校行事や生徒会活動、部活動等の自主的・自立的な活動を通じた自己肯定感や対人関係力の育成と集中力や帰属意識、一体感等の涵養 ③規範意識を培い徳性を育てるため、交通ルールの遵守と自転車事故防止に向けた交通安全指導に加えて、登下校時のマナーやSNS利用上のモラルに関する指導を実施 ④健康の保持増進と体力向上を視野に、栄養・睡眠・運動と健康の関係について、各教科及び部活動・特別活動等で指導するとともに、健康診断や体力テストを活用した健康教育を実施	①生徒との面談が効果的に実施され、「学校評価アンケート」の生徒の目標設定に関する調査項目の肯定回答割合が9割程度になったか。 ②④「学校評価アンケート」の学校行事や部活動に関する調査項目の肯定回答割合が9割程度になったか。 ②部活動の大会・コンクール等の実績が前年度同程度又は前年度以上となったか。 ③「学校評価アンケート」の生徒指導に関する調査項目の肯定回答割合が9割程度になったか。 ④健康診断や体力テストの結果が全国平均値と比較して良好か。	■最後まで諦めない気力・体力・精神力の強化は概ね実現 ①「学校評価アンケート」の生徒の目標設定に関する調査項目の肯定回答割合は79%(昨年度66%)であった。 ②④「学校評価アンケート」の学校行事や部活動に関する調査項目の肯定回答は【部活動】94%(昨年度87%)【学校行事】75%(昨年度88%)であった。 ②新型コロナウイルス感染症の影響を受け、部活動の大会・コンクール等の実績は前年度を下回った。 ③「学校評価アンケート」の生徒指導に関する調査項目の肯定回答割合は97%(昨年度86%)であった。 ④体力テストは中止した。	A	■次年度への課題 ・新型コロナウイルス感染症による制約条件下における生活指導と健康教育をより一層充実させる必要がある。 ・学校行事を通じて生徒の達成感や達成感を更に高めていく必要がある。 ・生徒の体力・技能・集中力の向上に向け、より合理的でかつ効果的に部活動を実施する必要がある。 ■改善策 ・生徒の心身の健康と安全に配慮し、自律的な学校生活を送れるようサポートする。 ・本校の良き伝統と創造を継承し、「学校の新しい生活様式」を踏まえた学校行事の在り方を検討・実施する。 ・行事の精選を行うとともに、部活動と学習活動をバランスよく両立させるための環境を更に整える。
3	■現状 ・創立46年目を迎える中、志願倍率1.30倍の西部地区人気校として認知されている。 ・近隣の教育機関や保育施設をはじめ地域と連携した活動も増えつつある。 ■課題 ・県内中学校卒業生数が緩やかに減少する中、志願倍率を安定的に維持していく必要がある。 ・地域貢献活動や学校公開・学校開放事業等を展開し、地域に開かれた学校づくりを更に推進する必要がある。	学校広報・生徒募集活動の効率化と地域連携・協力活動の充実	①業務の効率化を視野に、生徒募集に係る各種データを収集・蓄積・分析し、学校広報・生徒募集活動全般の更なる工夫・改善と戦略的展開 ②学校Webサイトを有効活用し、様々なニーズに応えるタイムリーな情報を発信するとともに、新聞部発行「なんこう新聞」をはじめとする紙媒体の広報ツールによる学校広報を展開 ③ステークホルダーとの良好な協力関係の形成・維持に基づく学校公開・学校開放事業等の更なる工夫・改善 ④生徒会や部活動を中心とした地域貢献活動を計画・実施	①データ分析結果に基づき学校広報・生徒募集業務の効率化と戦略的展開が進んだか。 ①②学校Webサイトの閲覧数が前年度を上回るとともに、「学校評価アンケート」の学校広報に関する調査項目の肯定回答割合が7割程度になったか。 ③④授業公開や文化祭・体育祭等学校公開時の来校者数、学校説明会等の参加者数、体育施設開放事業の利用者数、地域貢献活動の実績数等が前年度同程度又は前年度以上となったか。	■学校広報・生徒募集活動の効率化と地域連携・協力活動の充実に向けて更なる工夫・改善が必要 ①中学校等卒業予定者数進路希望状況調査や中学生の外部模擬試験結果等のデータ分析を進めた。 ①②「学校評価アンケート」の学校広報に関する調査項目の肯定回答割合は【学校HP】生徒71%(昨年度47%)保護者86%(昨年度57%)【メール配信】保護者84%であった。 ③④新型コロナウイルス感染症の影響により学校行事及び授業等は公開中止となり、地域貢献活動の実績数は前年度を下回った。	B	■次年度への課題 ・県内中学校等卒業予定者数の今後の減少を念頭に、効率的でかつ戦略的な学校広報活動の在り方を検討し展開する必要がある。 ・新型コロナウイルス感染症の感染状況を考慮しつつ引き続き開かれた学校づくりを推進する必要がある。 ■改善策 ・デジタルコンテンツとしての「学校イメージビデオ」「学校紹介動画」等の制作も含めた学校Webサイトの内容を更に充実させる。 ・本校の魅力を明確化し、関係機関や学校関係者等との連携によるオフラインの「クチコミ」を活用した広報を展開する。 ・学校公開や地域貢献活動等については新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、できることを無理のない範囲で実施する。

学校関係者評価	
実施日 令和2年2月12日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
■評価項目(年度達成目標)1に対する学校自己評価年度評価の達成度Bは妥当である。 ・「学校評価アンケート」の学習指導と進路指導の項目の結果は「大体当てはまる」が「よく当てはまる」より多い。「大体」が「よく」当てはまるに変わっていくために何が足りないのか、生徒や保護者の声を拾い上げることが必要である。 ・進学補講参加率7割であり、残りの3割がどのような要因で参加しないのか把握し、生徒のニーズに合った対応が求められる。 ・予習や復習など自学自習力を高める施策を継続しつつ、「時間管理」という観点の指導も検討していただきたい。 ・方策にある「教員相互の授業観察」の効果を生徒はあまり実感できていないと思う。	
■評価項目(年度達成目標)2に対する学校自己評価年度評価の達成度Aは妥当である。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で活動が大きく制限されているが、指標に示されている項目については昨年度を大きく上回っている。生徒の達成感・成就感を育む場があり、生徒も保護者もある程度満足している証である。 ・「結果ではなく、目標の実現に向かうプロセスに成長がある」と考えるため、教員側もそれを支える立場を貫いてほしい。 ・川越南高校は部活動・学校行事ともに盛んで、生徒の意欲も十分であるため、新型コロナウイルス感染症の影響下でどのような感染予防対策をとり、どの範囲までの活動が可能であるのかをより一層明確化する必要がある。	
■評価項目(年度達成目標)3に対する学校自己評価年度評価の達成度Bは妥当である。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で学校行事や授業を公開する機会がなく、生徒による地域との連携もできず残念の一言である。今後の状況にもよるが、ぜひ地域連携・協力活動等をお願いしたい。 ・中学生と高校生の繋がり、高校生と卒業生の繋がりなど、オンライン上で行うことも含めてオープンスクール的なこともできるとよいのではと感じる。 ・学校行事を公開することができない分、行事に加えて普段の学校生活の風景などをもっとホームページに掲載できると学校広報と生徒募集の両方に効果があると思う。	